

阿蘇 根子岳 山行報告

〔令和4年（2022年）4月2日〕

参加者：新 祐一・土橋 誠・岡村 繁雄

2012年4月にヤカタガウトから天狗のCOL経由で天狗峰に登攀。その後2016年の地震で天狗峰の東側が天狗のCOLごと大きく崩壊し通行不能となった。そのため今回は、日ノ尾峠より入山、10年ぶりの根子岳である。

コース：日ノ尾峠 → 天狗峰 → ヤカタガウト

今回は、車2台で来ていたため、1台をヤカタガウトの登山口の少し上の駐車スペースに置き、もう1台で日ノ尾峠まで移動。6時30分登山開始。

ヤカタガウトの下山口
より撮影

駐車スペースは、日ノ尾
峠に至る前方の車道数十
メートル先の左にある



日ノ尾峠 駐車スペース
〔6:30〕

日ノ尾峠からは、非常に急な登りが続く。



高岳を望む〔右の稜線が北稜〕



北稜〔望遠〕（昨年〔2021年〕10月に登攀）



日ノ尾峠のからの急登の後、
荒れた稜線を進む [7:40]



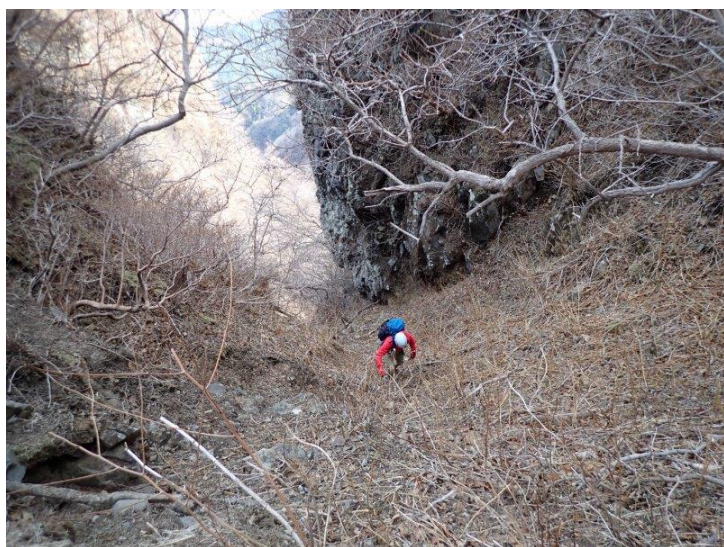
始めの懸垂下降地点 [8:05]

足場の悪い箇所が続く





フックスロープがあるが鞍部の非常に足場の悪いトラバース、以前ここを通過したときは、女性がいたのでザイルを出した [8:24]



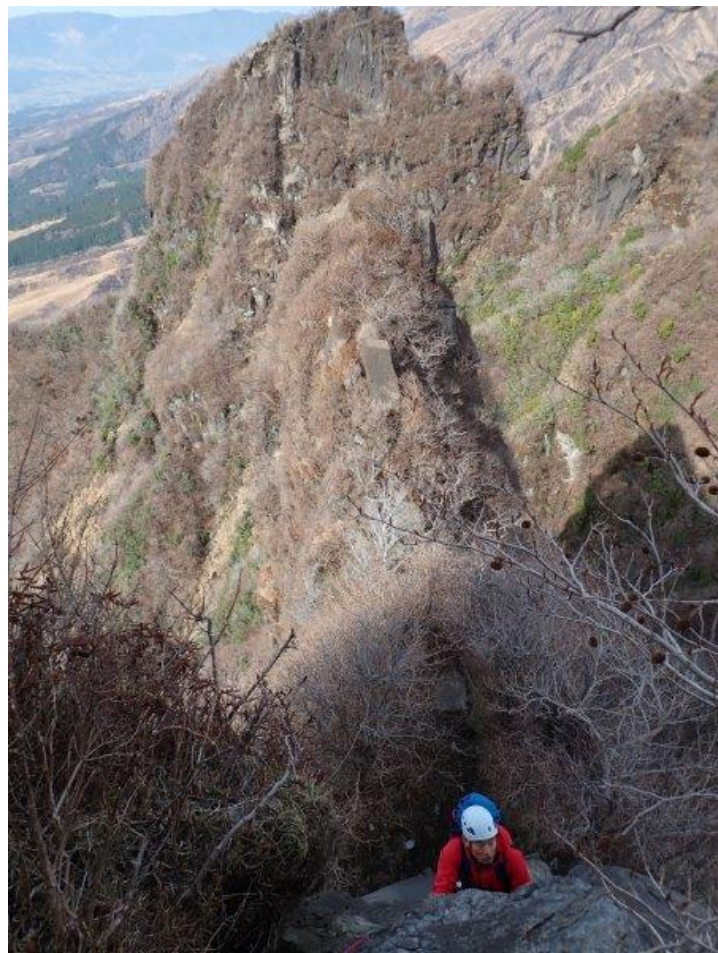
足場の悪い鞍部通過後の登り



稜線への乗越、気が負拔けない箇所が続く
[8:30]



最初の岩峰でザイルを出す〔8:34〕



最初の岩峰のピークより



渡る前

渡った後 →

次のピークの間が切れていて、フィックスロープがガッチリ掛かって、ここを渡る。スリル満点！〔8:47〕





天狗峰を正面に望める皿峰より

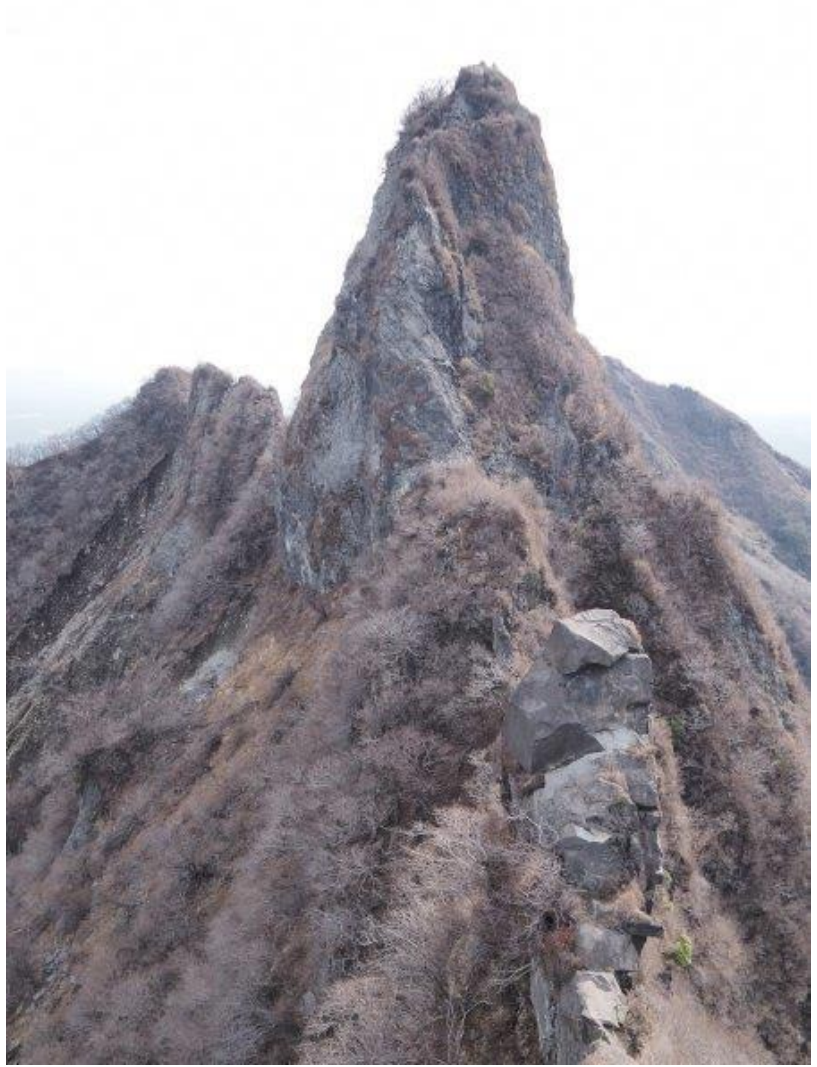


天狗峰 左後方
九重連山を望む〔望遠〕



天狗峰 右後方
祖母・傾を望む〔望遠〕

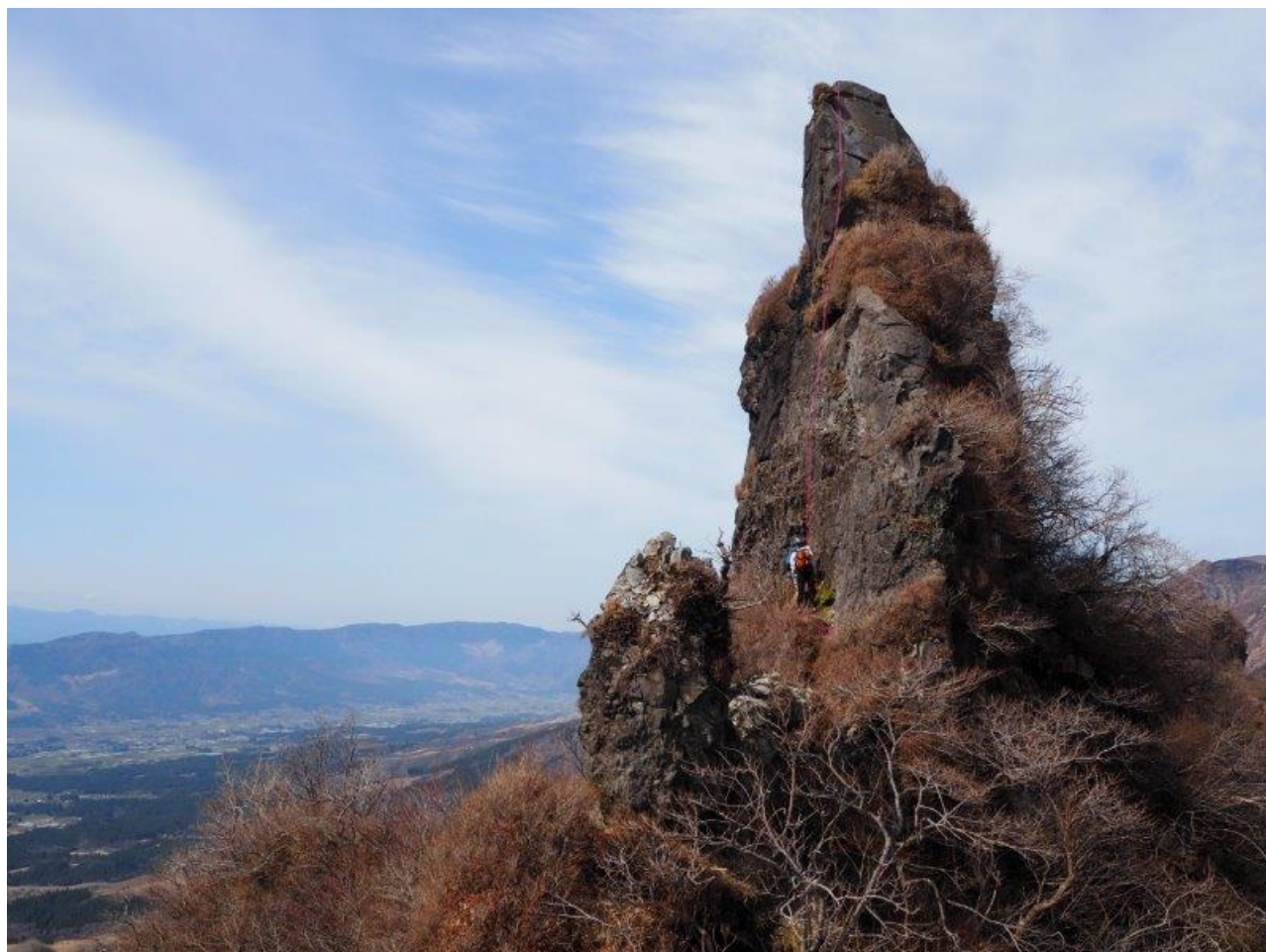
奥の天狗峰がⅠ峰であれば前方の
岩峰がⅡ峰で、Ⅲ峰からの撮影と
なる



Ⅲ峰から懸垂下降 [8:58]



Ⅱ峰からの懸垂下降 [9:39]



Ⅱ峰からの懸垂下降時に、ザイルの回収ができなかったため、改めて登り返してザイルを回収。上部のクラックにザイルが引っかかり、回収に多少の時間を要した

このリッチを通過後、天狗峰のクライミングに望む [10:00]



天狗峰Ⅰ峰〔望遠〕
クライミングルート



登りは、ここで靴を履き替えた。
懸垂下降時は、この支点を使用

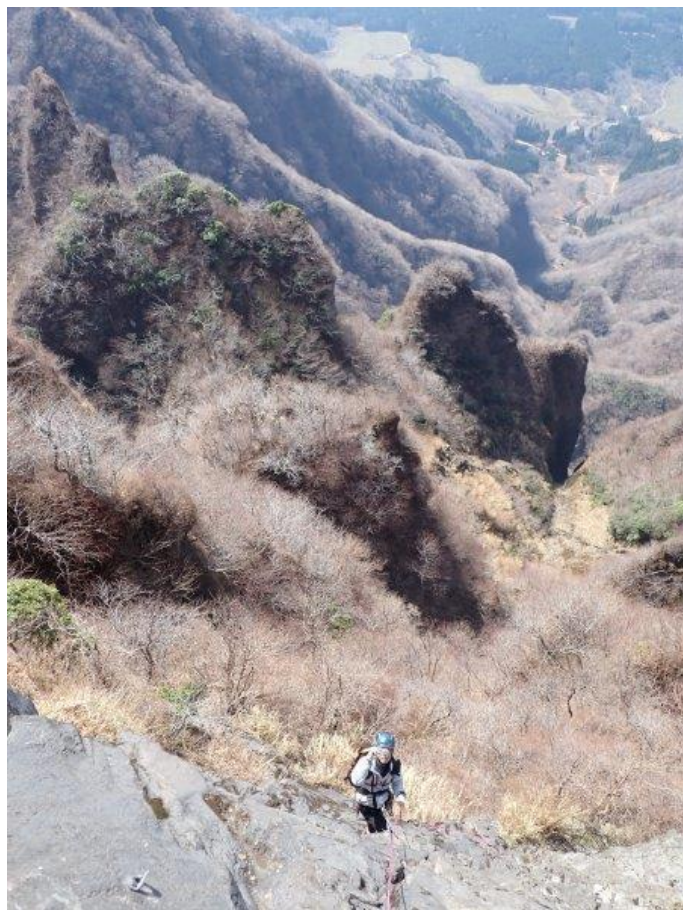
登り、この支点で確保

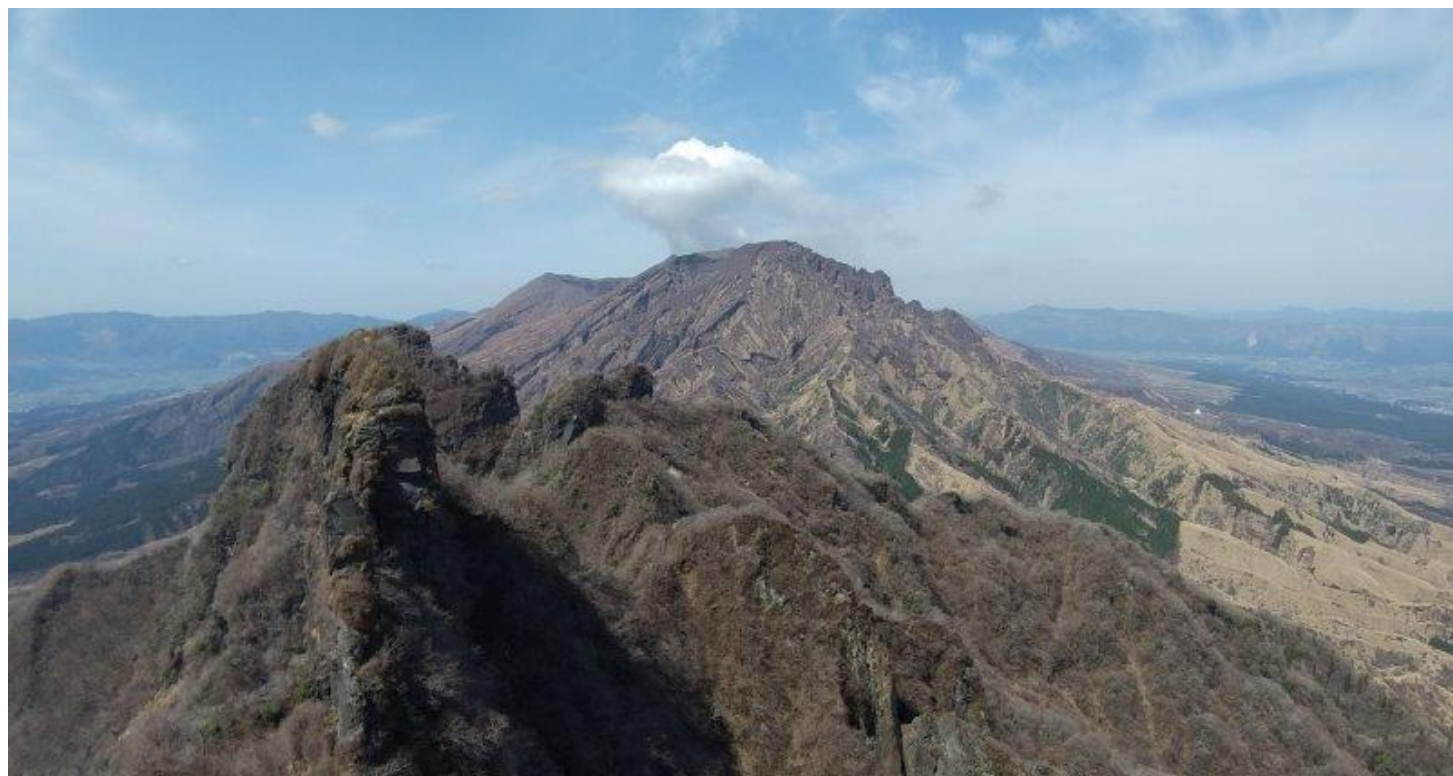


〔10:20〕

天狗峰クライミング風景

4級程度で天候も良く、クライミングを楽しんだ





天狗峰から、ちょうど阿蘇の火口より上がった噴煙が望めた



根子岳 天狗峰にて 〔11:09〕



2022 年 4 月今回撮影 天狗峰より東峰を望む〔画面左下の岩場が、崩壊して確認できない〕

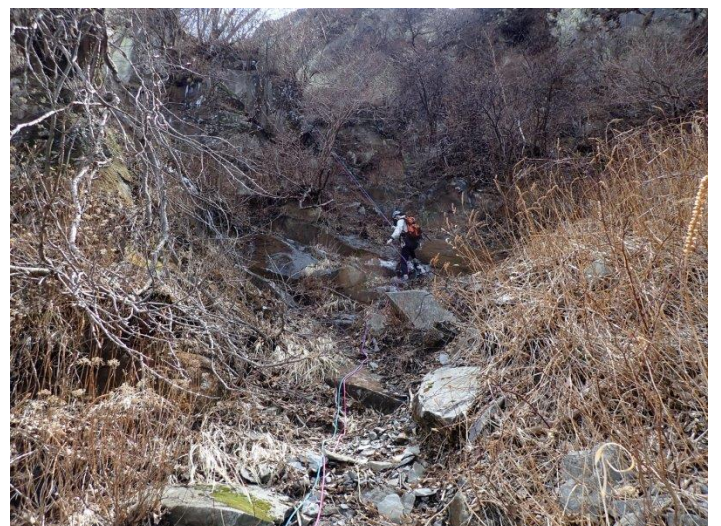


2012 年 4 月撮影 天狗峰より東峰を望む〔天狗のコル上部岩場に、後続メンバーが確認できる〕

天狗峰で休憩後、登攀した壁を
懸垂下降 [11:47]



懸垂下降後、鞍部に下降用の支点がある
ここから1回目の懸垂下降



1回目の懸垂下降、終了地点 [12:18]

1回目の懸垂下降後、ガラバを少し下降後に
2回目の懸垂下降
周りがガラガラで不安定なので落石に注意し
ながら下降

〔12:46〕



2回目の懸垂下降後、フックスロープがあるものの
斜面の崩壊が進む箇所の微妙なバランスでのトラ
バース

通過しているときは気づかないが、下から見ると
かなりやばい感じである 〔13:00〕

一休み、後方に岩峰が望める



谷に降りた後、ガラバを下ると崩壊した
林道に出る [13:58]

ヤカタガウド下山口〔文頭の写真〕に 14:00 到着、7 時間 30 分の行程であった。

日ノ尾峠から天狗峰までは、変化に富んだバリエーションルートであるが、谷への下山ルートは、崩壊が著しく注意が必要である。

今回は、好天に恵まれた好条件での登攀であった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura U.Atarashi
M.Dobashi